

# 保健体育研究委員会

世話係 三輪 千子（波田小学校） 委員長 有賀 浩之（寿小学校）  
研究委員 小林 南実（波田小学校） 北野 剛史（筑摩小学校）  
赤羽 徹郎（筑摩野中学校） 滝澤 萌波（丸ノ内中学校）  
鋤塚 隆直（菅野中学校）

## 目次

1…研究テーマ	1 ページ
2…活動の内容	1 ページ
3…公開授業の様子	2～3 ページ
4…成果と課題	4 ページ

### 1 研究テーマ

「すべての子どもたちが、自ら運動の楽しさを深めていくにはどうしたらよいか」

保健体育研究委員会では、ここ数年、多様な学習者すべてが運動の面白さに触れることができる体育の授業づくりに取り組んだ。今年度は特に「表現・ダンス」の領域を窓口に、運動に苦手意識をもつ児童や特別支援学級の児童が、運動の本質的な楽しさを味わうことができる授業を目指し、波田小学校で授業公開を行った。

### 2 活動の内容

#### (1) 研究委員会の開催

第1回研究委員会…年間の活動計画の立案、研究テーマの設定

第2回研究委員会…波田小学校の体育授業参観

第3～5回研究委員会…波田小学校学校の体育「表現」の授業づくり

第6回研究委員会…波田小学校の体育「表現」の公開授業および授業研究会

第7回研究委員会…公開授業の振り返り、まとめ

#### (2) 授業公開および授業研究会の開催

日 時：令和5年12月1日（金）

場 所：長野県松本ろう学校 体育館

授業者：朝倉 桃 教諭

授業者：内田 匡輔 先生（東海大学体育学部教授）

### 3 公開授業の様子

(1) 単元名 「〇〇になりきろう！レッツムービング！」(5年生表現)

(2) 授業学級 5年3組 男子18名 女子13名 計31名

(3) 表現「〇〇になりきろう！レッツムービング！」で目指したい姿

5年3組は、体を動かすことが好きな児童、体育の授業を楽しみにしている児童が多い。一方で、技能面で難しさを感じた時や、仲間と考えを出し合い、運動をつくり上げていくような活動は、気持ちが向かず活動に前向きになれないことがある。また、活動自体に取り組むことが難しい児童もおり、体育の授業に参加せず別のことをする場面が多くみられる。そのような子ども達が、表現の学習を通して友と関わりながら自ら進んで運動を楽しむ姿を目指し、本単元を設定した。

(4) 目指す姿を具現化するための手立て

① 【導入場面での意欲付けの工夫】

- ・子ども達が心を解放できるよう、毎時間なじみのあるダンスをウォーミングアップに取り入れる。
- ・お互いの表現のよさをみとめられるよう、「ナイス!」「すごい!」のカードを使って、ほめ合う活動を取り入れる。

② 【展開場面での工夫】

- ・イメージカードを用いて、個やペア、グループで自由に表現を楽しむ活動を取り入れる。また、イメージカードは児童のアイデアをもとに作成する。
- ・子ども達の表現の工夫を教師が見取り、認める声かけをする。また、その表現のよさを価値づけるとともに、「4つのくずし」の視点と結びつけていく。

③ 【週末場面での工夫】

- ・次時はどんな表現がしたいか、子ども達の声から決めだしていく。

(5) 学習指導案

① 本時の主眼

「からだジャンケン」や「三原色のダンス」で様々な動きを身に付けたり、イメージカードで表現の幅を広げたりしてきた子ども達が、グループで「海」を表現する場面で、「はじめ—なか—おわり」を決めて表現のメリハリを考えたり、他のグループとの交流会をしたりすることを通して、4つのくずしを使ってテーマに沿った表現を楽しみながら友に伝えることができる。

② 本時の位置

全6時間中 第5時

③ 留意事項

- ・グループ活動が停滞しないよう、どのような考えも認めるような声かけをする。
- ・4つのくずしを意識して活動できているか、声かけをする。

④ 本時案

	学習内容	指導上の留意点	評価
導入	<p>1. 準備運動「三原色のダンス」</p> <p>2. 2～4人組づくりあそび</p> <p>3. 本時の目標の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇な三原色」を決め、〇〇が表現できるような動き方を促したり認めたりしていく。</li> <li>・うまく人数通りのグループになれなかった場合は、人数を変更してもよいことを認める。</li> <li>・前時の振り返りから、本時のめあてを黒板に明記し、共有する。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">今日のめあて：メリハリをつけた「海」を表現しよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ～なか～おわり」や「4つのくずし」について確認する。</li> </ul>	
	<p>4. 海のイメージカードを使って、海のもの表現する。</p> <p>5. グループごと「はじめ～なか～おわり」を考え、海の表現を考える。</p> <p>6. 交流を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が書いた「海にあるもの(こと)」のイメージカードを大量に用意し、様々な表現を楽しめるようにする。</li> <li>・児童の表現に対し肯定的な声かけを行い、自信をもって楽しんで動けるようにする。</li> <li>・「はじめ～なか～おわり」や「4つのくずし」を意識しているグループを取り上げ、共有する。</li> <li>・困って動きが停滞しているグループには、教師が入り一緒に動いてイメージを具体化できるようにする。</li> <li>・他のグループの表現のよさを見つけ、「ナイス！」や「すごい！」のカードを提示するよう促す。</li> </ul>	<p>○4つのくずしを使って、テーマに沿った表現を楽しみながらほかのグループに伝えることができたか。</p>
	7. 本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードに本時の振り返りを書き、全体で共有する場を設ける。</li> <li>・次回にやりたことを話し合い、見通しをもつ。</li> </ul>	

## 4 成果と課題

### (1) 成果

#### ○児童の安心感を生み出す教師の関わり

授業者の朝倉教諭は、導入の「三原色のダンス」から、一貫して肯定的な声かけを行っていた。ダンスの振り付けがちがっていても「面白いね」と言って、同じ動きを児童に合わせて行っていた。また、さらに表現を考える場面では「その動き、いいね」「この動き面白いね、何を表しているの」と、児童の表現を受け入れ、問い返す場面が多く見られた。このような関わりにより、安心して表現の活動に浸りこんだり、自分たちの表現方法やその効果について深めたりしていく児童の姿に出会うことができた。

#### ○「心を解放させて表現する」ための単元展開のあり方

単元の最初では、運動会で踊った「三原色のダンス」や「からだジャンケン」「新聞紙になろう」など、すでに自信をもって踊れるダンス、条件を指定されている動き、目の前の具体的なものについて模倣していく動きなど、児童にとってハードルが低いと思われる表現を多く取り入れた。そこから徐々に「〇〇な三原色」と表現に独自の工夫を加えたり、イメージカードで具体物でないものの表現に取り組んだりするなど、スモールステップを意識した単元展開を構想した。この単元展開は、運動に苦手意識をもつ児童にとって、表現の運動に対する不安を取り除き、無理なく新しい運動に取り組むことができた大きな支援の一つとなったと捉えた。

#### ○表現の授業を楽しみにしている児童の姿

普段の体育の授業への参加が難しく、体育館に来ても隅のマットの上で過ごすことがほとんどだったA児。しかし、この単元は仲の良い友だちと一緒に、カードをめくっては自由に体を動かして一時間中、一緒に体育の学習をすることができた。時間の最後には「この勉強は遊びだから好き。楽しい」と語った。この言葉は、安心できる仲間と一緒にできたこと、「こうしなければいけない」という考えから解放され、自由な表現を楽しむことができたという充足感から発せられた言葉であると捉えた。

### (2) 課題

#### ○ICT 機器の効果的な活用方法について

本単元では、一人一台端末など ICT 機器が児童によって活用される場面がなかった。自分たちの表現がイメージ通りできているのか確かめたり、互いの感想を伝え合ったりするなど、効果的な ICT 機器の利用場面について検討し、児童の必要感に応じて活用できるよう構想したい。

#### ○運動量に関わって

イメージカードをめくって表現を検討する際、床に座って長い時間話し合う児童の姿があった。どンドン体を動かしながら即興的に表現をしていく児童の姿に出会うためにどうあったらよかったか、イメージカードの内容、児童への声かけ、活動の方法など様々な方向から検討していきたい。